

タンネウシ



1月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

本年もよろしくお願いします!

新年、明けましておめでとうございます。旧年は会員のみなさまからのご声援に支えられ、博物館としても充実した一年となりました。2020年もみなさまから愛される、親しみやすい博物館を目指して、職員一同精進してまいりますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

ミュージアムカフェ 「国後島訪問記」

2019年8月末、当館の三浦学芸員が「日露隣接地域生態系保全協力プログラム」の一環として、国後島の専門家交流に参加しました。交流中は、現地レンジャーと共に普段は入ることができない自然地域を視察し、専門家間で情報交換を行いました。そこで見た現在の国後島の町や自然、人々の様子を写真や映像と共に紹介します。▶日時：1月31日(金) 18:30～20:00▶会場：交流記念館2F応接室▶講師：三浦一輝 学芸員▶定員：13名、要申込み▶参加費：大人200円(博物館協力会員無料)



ロビー展

「オホーツク人の暮らし」

今から1,200年前、北海道の北部～東部には漁労や海獣狩猟を生活の基盤とした古代オホーツク文化の人々が暮らしていました。オホーツク人の遺跡は斜里町でも数多く発見されており、ウトロのチャシコツ岬上遺跡はその中でも特に価値の高い遺跡として国史跡に指定されています。遺跡からは獲物を仕留めるヤジリや、動物の骨を素材とした独特な道具、様々な動物遺体など、オホーツク人の暮らしぶりが窺える資料が見つかっています。今回のロビー展では、11月までウトロのホテル(kiki知床ナチュラルリゾート)にて出張展示されていた出土品、約50点を引き続き交流記念館にて公開します。▶会期：1月31日(金)まで▶場所：交流記念館ホール



収蔵資料展示

「アンティークレジスター」

昔懐かしいムード漂うキャッシュレジスターを展示します。木製らしい色

合いや質感が魅力的で、現代の物にはない、あたたかな味わいです。病院や商店で昔利用されていたレジスター 3点を展示します。▶期間：2月29日(土)まで▶場所：知床博物館本館ロビー▶ロビー展のみの観覧は無料です



学芸員のイチオシ



キネティックサンド (手が汚れないねんど)
昨年度の特別展の発掘体験コーナーで使用した商品です。98%は砂で、2%がシリコン物質らしく、サラサラとした手触りの中に粘り気もあります。屋内での砂場遊びにぜひ(平河内)

休館日 6、13、20、27日(月)と14日(火)は休館日です。また、1月1～3日は年末年始のため休館します。

編集後記 先月のシンポジウムの要旨集を博物館のホームページにアップしました。(平)